

# 大阪日々新聞

明治八年

夫任主たる者の定まる妻の外邪淫を  
 禁むるは宜しむ哉茲小播以龍堅ト  
 云所何某と云有夫婦小下女  
 一人を仕たる主此下女竹に  
 心を向け夜毎く小主の

竹の方を  
 臥せられ  
 妻嫉  
 妬の心深  
 く夙夜  
 忘る隙さ  
 流  
 より外時をまの四月十七日の  
 ころが主家用を他行を幸ひと  
 竹を呼て雨頼有命かゆきト云  
 り早く殺し陰門を締めて苞下  
 りて血置主人飯宅及し酒肴と  
 出右の刺身を喰うめたる主の白此指味ハ  
 何とより貫を問ふる奥かつる人が贈られと云  
 主酒肴すそと奥行見ま女ハ赤けとそと  
 死てり其間の  
 妻の自害を  
 ありとす

柳櫻記



八代



川傳梓

彫寅